

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		第3回 福津市こどもの国推進協議会
開催日時		令和6年3月12日（火）午後6時00分～午後8時00分まで
開催場所		福津市立図書館2階 研修室2
委員名		(1)出席委員 安德尊博 西田明日香 永渕美香子 阿部 泰治 井上惣一郎 笠置千晶 (2)欠席委員 高木陽一郎
所管課職員職氏名		こども家庭部：中村部長 教育部：石津理事 子育て世代包括支援課：羽田野課長 こども課：仲野課長 子育て支援係：甲斐係長、神山主任 こどもの国推進係：竹田係長、有吉主査 子ども・子育て支援事業計画事業受注候補者：株式会社ぎょうせい
会 議	議 題 (内 容)	1. 開会あいさつ 2. 協議会の運営方法について (1) 会議公開・非公開について (2) 会議録の作成について 3. 協議事項 「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定に関する 調査票について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	3人

	資料の名称	資料 1 市町村こども計画の作成と計画策定に向けた調査等について 資料 2 子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査 資料 3 子ども・子育て支援新制度の概要 資料 4 生活実態調査について 資料 5 「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査票案（就学前児童保護者対象） 資料 6 「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査票案（就学児童保護者対象） 資料 7 子どもの生活実態に関する調査 設問設定一覧表 資料 8 子どもの生活実態に関する調査票案（保護者用） 資料 9 小学生・中学生の生活状況についてのアンケート調査 設問設定一覧表 資料 10 小学生の生活状況についてのアンケート調査 資料 11 中学生の生活状況についてのアンケート調査
--	-------	--

会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
	記録内容の確認方法 会長による確認
その他の必要事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会あいさつ
こども家庭部長あいさつ

2 協議会の運営方法について
会議については公開（傍聴人3名）、会議録は録音による要点記録。

3 協議事項

「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」の策定に関する調査票について

【事務局説明（竹田係長）】

調査票に関するご意見をいただく前に、改めて調査の位置づけについて説明いたします。資料1「市町村こども計画の作成と計画策定に向けた調査等について」参照。こども基本法やこども大綱の策定を受けて、令和6年度までの計画である福津市第2期子ども子育て支援事業計画の整理と、第3期計画として「子ども・子育て支援事業計画」に包含して「次世代育成支援対策行動計画」、「子どもの貧困対策推進計画」の整備を進めます。またこれらの計画と一体的に「少子化対策に関する事項」と「子ども・若者計画」の整備を検討していきます。また、福岡県でもこども大綱を受けて、こども施策に関する計画を策定していきますので、福岡県とも整合性を図りながら策定していきます。国や県のガイドラインに従って策定していくもので、策定に向けて、教育・保育ニーズなどの子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査と、子どもの貧困に係る調査を行います。

資料2「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」、資料3「子ども・子育て支援新制度の概要」資料4「生活実態調査について」参照。具体的な調査の内容について説明します。まず、子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査について、市が実施する給付・地域子育て支援事業実施のためのニーズを把握するための調査で、第1期、第2期を踏襲する形で行います。調査対象は未就学児童の保護者と就学児童の保護者で、事務局により無作為に抽出し、調査票を郵送、郵送またインターネットにより回答していただきます。次に、子どもの貧困についてです。調査票の設問については、国のガイドラインを基に、他市町村の事例も参考にしながら、教育委員会と協議をし、整理しました。この調査で、学校や家庭での生活の中で抱える悩みや困りごとなどの状況を把握し、その解決に必要な支援策を検討します。貧困についての考え方としては、「低所得」、「家計の逼迫」、「子どもの体験等の欠如」の3つの指標を軸にしており、調査を行うことで、市内の生活困難家庭の比率を把握します。調査対象と方法についてです。対象は小学5年生、中学2年生、そしてその保護者です。方法は、教育委員会や学校と協議をしますが、児童生徒には、学校でタブレット端末を用いてインターネットで回答を、保護者には児童生徒が案内文を持ち帰り、インターネットで回答してもらうことを考えています。児童生徒と保護者には何のための調査であるかはしっかりと説明ができるようにしたいと思います。また、特に小学5年生で回答に補助がある場合など、学校の先生からガイダンスできるようにすることも検討しています。本日、委員の皆さまからご意見をいただき、表現などを調整し、会長に確認していただきながら、内容を固めていきたいと思っております。

【質疑応答】

（安徳会長）事務局からの説明について、ご質問等ありますでしょうか。

（永渕委員）タブレットで回答というのは、子どもたちも家で書かなくていいので非常にいいなと思いました。調査票には「無記名で」と書いてありますが、小学5年生とい

うことで、より柔らかい表現を使って「家族にもわかりません」などとしてもいいのではないのでしょうか。また、深刻な内容の回答があった場合について、フォローできる作りこみになっていきますでしょうか。今回のアンケートは、その部分は切り離して、あくまで現状の把握ということでしょうか。

(竹田係長) 保護者がいると書きにくいことがあるかもしれないので、学校で回答してもらい、保護者には知られないことを、子どもたちにもお伝えするのが良いかと思っています。また、個人は特定できませんが、学校毎の結果を学校と共有できるように、教育委員会と協議しています。調査結果の情報共有をすることで、学校でも活用していただければと思っています。

(阿部委員) 子どもの貧困に係る調査についての方法ですが、保護者用調査票については、子どもが学校でプリントを貰っても渡さない場合があると思うので、メールで各家庭に送信した方が保護者は見るチャンスが多いかと思います。

(竹田係長) 今いただいたご意見も参考により良いやり方を検討させていただきたいと思います。

(安徳会長) 他にないようですので、次は調査票の中身について、事務局説明をお願いします。

【事務局説明（竹田係長）】

まずは、就学前児童保護者対象の調査票についてです。資料5「「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査票案（就学前児童保護者対象）」参照。基本的には第2期のときの調査票を踏襲していますが、問7の家事及び育児時間の問いは、前回の第2期のときの調査票に、新たに追加しています。

就学児童保護者対象の調査票についても同様な設問になっています。資料6「「福津市第3期子ども・子育て支援事業計画」策定のためのアンケート調査票案（就学児童保護者対象）」参照。問18は、小学生になると地域活動やグループ活動に参加することが出てくると思いますので、設問を設けています。

こちらの2つの調査は、保育所事業や学童事業などを行い、子育て支援をすることに焦点を当てた調査票の作りこみになっています。

【質疑応答】

(安徳会長) お気付きの点などはありますでしょうか。

(永渕委員) 3ページの間8「子育てに関する悩みや気になることはありますか（5つまで○）」と書いてありますが、この中身が大切だと思っています。選択肢18に「その他」とありますが、この中に「接し方のどんな部分に自信がないのか」や「子どもとの時間が十分取れないのはなぜか」などの具体的な内容を聞いた方がよいかと思います。今後、子どもたちや市民に還元するにあたって、表面ではなく、中身が大事ではないかと思います。今回の調査が質的なものではなく、量的なものだとは思いますが、具体的な内容から見えてくるものや、拾われてくるものがあるかと感じました。

また、幼稚園や保育園では、送迎時などのタイミングで保護者との関わるじかんはありますが、小・中学校は、そのような時間が少ないため、保護者も直接先生に話をしにくい状況も考えられます。何か良い設問を設けられたらと思います。

(西田副会長) 就学後の子育てに関する悩みや気になる部分に関して、おそらく保護者の方の一番の関心は、勉強についていけているか、学校に馴染めているか、学校の先生方と子どもが上手くいっているか、などで、そういう声はいろいろなところで聞きます。小学校以上の設問に関しては、そのような設問があっても良いかと感じました。

(笠置委員) 初めて子育てをする方は、自分が何に悩んでいて、何で大変なのかに気付いていないことがとても多いです。こちらから「ここが大変ですね」と話をすると、ふ

と気付かれます。問8などで、子育てや子どもに対しての設問も多くありますが、「自分自身はどうですか」という柔らかい質問があると、保護者が思いを伝えられる機会になるかと思えます。

(安徳会長) 今までのご意見などについて、事務局から何かありますでしょうか。

(竹田係長) いただいたご意見を参考に検討させていただきます。

(西田副会長) 環境面だけでなく、心理的な部分もあると書きやすいかもしれません。

(安徳会長) 8ページの「病気の際の対応」について、「事業所に休みやすい環境を作ってほしい」などの希望を記載できると良いと思います。働きやすい環境の整備は今後の課題なので、社会に訴えていけるような設問があると良いと思います。

また、問8や10、11ページの問いについて、両親がともにアンケートを見た際に、「配偶者の協力が少ない」、「配偶者と意見が合わない」や就労状況など、回答しにくい設問と思いました。

(竹田係長) 回答者の問題については、アンケートの限界ということもありますが、回答の中で集計し、判断していくというのが限界かと思えます。両親のどちらが答えたかということで、傾向は見ていくかもしれません。

(安徳会長) 西田副会長のご意見で、例えば問7と問8の間に、「子育てしていて精神的なストレスなどを感じたことはありますか」などの内容があれば、その設問と生活困窮者の大人の精神状況と子育てがリンクしてくるので、そのことを事前に把握することで、該当の保護者へのフォローアップの施策等に紐づけができるかもしれません。

また、問26の11に「産後のケア」とあるので、「産前のケア」についても、選択肢があると良いかもしれません。

(安徳会長) では、続きまして、実態調査の方の説明をお願いします。

【事務局説明（竹田係長）】

まず、保護者の方への調査で、子どもの生活実態調査票についてです。資料8「子どもの生活実態に関する調査票案（保護者用）」参照。子どもの生活実態調査は、先ほどの説明のとおり、低所得や家計の逼迫に焦点を当てたものとなっています。

次に小学生への調査についてです。資料10「小学生の生活状況についてのアンケート調査」参照。教育委員会と協議をしながら、子どもが回答しやすいように、1ページ目に「誰が答えたのかわからないよう無記名で」や「テストではありません」などを記載しています。また、回答する際の先生のフォローについても、今後検討していきたいと思えます。

中学生への調査です。資料11「中学生の生活状況についてのアンケート調査」参照。小学生への調査に加えて、部活動のことやヤングケアラーについての設問があります。

【質疑応答】

(安徳会長) それでは、まずは保護者向けの調査票について、ご意見はありますか。

(永渕委員) 6ページの問22、子どものことに関して日常で悩んでいることについては、自由記述欄があった方が具体的に後からフォローできるかと思えます。また、子どもの調査票とも共通で、問16の「子どもとの会話」については、具体的に何分程度会話があるのかがわかると良いと思えました。加えて、子どもたちにも同じ質問をして、保護者の会話の認識と子どもの会話の認識が合致しているかがわかると良い調査になると思いました。

(西田副会長) 設問を読み解くと、問19や22のようにナーバスな問題が多く、そういうことを知りたいのかと思ってしまうかもしれません。マイナスのことばかりではな

く、福津市でこれがあつたからありがたかつたとか、すでにある福津市のこんな施策があつたから救われたとかもあると、今後も施策として続けやすいかと思ひます。

(安徳会長) 問 23「お子さんの子育てに関する相談先はどこですか。」の後にそのような設問を挿入するという考えもあると思ひます。選択肢の「その他」では拾ひにくい部分だと思ひますので。

その他に保護者への調査票に関する点で何かござひますか。

(阿部委員) このアンケート調査は法的な回答義務はないですね。

(竹田係長) ありません。

(阿部委員) 例えば「このアンケートは〇分程度で終わります」のように、調査のボリュームを記載するなどして、回答を促す手立てを施すのはいかがかでしょうか。

(永淵委員) 「データや結果は必ずお返しします」のような記載があると、回収率も増えるかもしれません。

(安徳会長) どこから調査票回答依頼が来ているかによつても回答率が変わってくるかもしれません。

(西田福会長) 学校からのスクールメールであれば、回答しないといけないと思つた経験があります。

(永淵委員) 「福津市の子どもの未来のために」などの表記があると良いかと思ひます。

(西田副会長) このアンケートの目的と、何に活かされるのかがわかると良いと思ひます。

(安徳会長) 4 ページの問 16(5)は、「お子さんが小さいころ」というのは「幼いころ」の方がいいのかもしれないと思ひます。

保護者の調査票についてはよろしいですか。では、小学生・中学生の生活実態調査に絞つてご意見等をお願いします。

(永淵委員) 中学生の調査票の 6 ページに入つているヤングケアラーのイメージの挿絵はとても良いと思ひました。関連して問 23「あなた自身はヤングケアラーに当てはまると思ひますか。」と 4 択がありますが、例えば、当てはまる場合に、どのヤングケアラーに当てはまるのかを選択する、もしくは具体的に記入できたら良いと思ひます。

これと同時に、小学 5 年生にもヤングケアラーに当てはまる人はいると思ひるので、同じように挿絵を挟んで聞いてもいいと思ひました。

また、7 ページの問 24「あなたが、学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。」について、「その他」の欄を大きくすることで拾える意見もあるのではないかと思ひます。

(竹田係長) ヤングケアラーの設問を小学生の調査票にも入れるのであれば、読みやすいように漢字・ふりがなの配慮が必要になってくるかと思ひます。

(西田副会長) 子どもの体験等の欠如というところの観点で、地域活動の場で救われている子もいるのではないかと感じています。問 25 ではそういった点も聞いてもいいかと思ひます。

(阿部委員) 小学生用調査票の問 24「あなたの『思い』や『気持ち』についておたずねします。」について、それぞれ 3 択で回答する形ですが、肯定的な回答 2 つと否定的な回答 1 つで、良い方をつけさせたいと思われるかもしれないので、4 択にするか、真ん中を「どちらともいえない」にしてはいかがでしょうか。

(永淵委員) 私も同意見で、4 択や 5 択もあるので、揃えた方が良いと思ひます。

(笠置委員) 問 27 では、本人の自己肯定感を上げるために、「誰かから褒められたり、求められたりしてありますか」という項目があつてもいいかと思ひます。

(安徳会長) 私も笠置委員と全く同じで、「私は自分自身の好きなところが一つでもある」や「夢や目標を持っている」、「やりたいことがある」などの項目が入ってくると良いかと思います。

(永淵委員) それらの回答によって、「福津市の子どもたちにこんな夢を持っている人がたくさんいます」などと活かしたら良いと思います。

(井上委員) 高校生の調査はできないのでしょうか。こども課として、どこまで支援するので、変わってくると思いますが、高校生も大人のものであってまだ子どもなので、せっかく小中学生用を作っているのであれば、高校生の分もあると参考になると思います。今の小中学生が今後高校生に上がったときに、良い参考事例となると思います。

(安徳会長) 私からも何点か質問させていただきます。まず構成のことに、学校のことを最初に聞いて、その後に家庭のことについて聞く流れにした理由をお聞きしたいです。

また、学校が楽しいかの設問はあるが、家庭が楽しいかの設問もあっても良いのではないのでしょうか。「家庭での生活が楽しいか」や、「親から褒められたことがあるか」など、子ども目線の設問がもっとあっても良いと感じました。

最後に、この小学5年生・中学2年生の実態調査は、兄弟姉妹で重なって1つの家庭に2枚届いた場合はどうするのでしょうか。

(竹田係長) これにつきましては、1つの家庭でも兄弟姉妹との接し方は違ってくると思うので、宛名の対象の児童についてそれぞれ記入していただくつもりです。所得等は同じになると思いますが、それ以外の部分は別々のものになるかと思います。

(安徳会長) その他、何かございますか。無いようですので、事務局に戻してよろしいでしょうか。

(竹田係長) この協議会でいただいたご意見をもとに、会長と事務局で調整をさせていただいて、この内容を固めていくということでもよろしいでしょうか。皆様のご承諾をいただけますでしょうか。

(安徳会長) アンケートの確定予定はいつでしょうか。

(竹田係長) 基本的には今年度中です。

(安徳会長) 私だけでは重たいかもしれないので、西田副会長にも協力してもらおうと思っています。では、そういった形でやり取りをさせていただいて、決定事項はこちらに一任させていただくということでもよろしいでしょうか。

(反対なし)

以上で審議を終了させていただきます。事務局の方へお返しさせていただきます。

(事務局) 本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今回を持ちまして、令和5年度のこどもの国推進協議会は終了します。来年度以降も引き続き、こちらの協議会で支援施策などを協議していただければと思います。委員の方々は変更がありますが、またご協力をお願いすることも出てくると思いますので、その際はよろしくお願いたします。